

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	有機化学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	選択必修(バイオサイエンスコース/食品生物資源コース/エネルギー・環境コース)						
担当者	菅野 憲一						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・求核置換反応機構を説明でき、種々の化学合成に応用できるようにする。 ・アルコール、フェノール類の性質を説明でき、正しい反応式が書ける。 ・エーテル、エポキシドの性質を説明でき、正しい反応式が書ける。 ・アルデヒドとケトン、カルボン酸、アミンの性質を説明でき、正しい反応式が書ける。 						
日程と内容	<p>9/14 第1回 授業概要の説明、成績評価法、有機ハロゲン化合物への求核置換反応を修得する。 9/21 第2回 SN2反応機構、SN1反応機構を修得する。 9/28 第3回 E2脱離反応機構、E1脱離反応機構を修得する。 10/12 第4回 アルコール、フェノール類の命名法およびその酸性度、塩基性を修得する。 10/19 第5回 アルコールの脱水反応 10/26 第6回 アルコールの種々の反応 10/31 第7回 グループワーク/アルコール、有機ハロゲン化合物 11/9 第8回 アルデヒドとケトンの命名法、性質を修得する。 11/16 第9回 アルデヒドとケトンの水和～還元反応を修得する。 11/23 第10回 アルデヒドとケトンのGrignard試薬の付加～アルドール縮合を修得する。 11/30 第11回 カルボン酸の命名法、性質を修得する。 12/7 第12回 カルボン酸の反応を修得する。 12/14 第13回 アミンの性質を修得する。 12/21 第14回 アミンの反応を修得する。 1/11 第15回 グループワーク/化合物の命名法と反応式 1/18 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	100%	実技	部外評価			
	臨時試験		報告書・レポート	プレゼンテーション			
	課題		演習	計	100%		
授業到達目標の達成度	到達目標に掲げられた項目は定期試験において試験された。その結果、合格率は97%と高く、かつ不受験、放棄を除外した不合格者を含めた評価対象者の平均点は78点(昨年度81点、2年前:79点)で、ほぼ、毎年同程度の点数となっている。以上のことから概ね到達目標を達成しているものと考えられる。						
反省点	授業内容を削減する事ができないため、授業中の演習問題などで理解を促進するように努めた。30分～1時間程度を想定した宿題を出すことで自己学習を促した。アンケートより、受講生の予習復習の時間も2時間であり、想定した時間よりも多い結果となった。ほとんど全ての学生が授業に大変、協力的であった。						
来年度の計画	受講生のご協力のおかげで静寂な授業環境を維持できた。短い時間内に効率よく理解するための工夫として、昨年度からmoodleを利用した演習を開始したが、これも改善を進めたい。これまで、宿題を課して次週に復習することで理解を深めるように心掛けたが、次年度はアウトプットの充実を図るために反転授業を取り入れる。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は7.9となった(昨年度8.6、2年前8.1)。2年前よりも広い範囲をカバーしたため量が多くなったことも要因と思われる。反省点を改善し、よりよい講義を目指します。授業中の演習問題や、宿題の難易度について聞くと難しいとの回答であったが、後半にいくにつれて解けていく傾向があった。また、最終的に合格率および不合格者を含めた平均点も高かった。						
履修登録者数	75名	定期試験 受験者数	72名	合格者数	69名	合格率	96%